

令和 4 年度 調布市立柏野小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
○ 考える子 ◎ 思いやりのある子 ○ 健康な子	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像	
学校像：「子供が明日も学校へ来ようと思う学校づくり」	
児童像：学習、生活、自分の生き方を（考える子） 自分、友達、大人を（思いやることができる子） 体、心の（健康な子）	
教師像：（児童がよりよい学校生活をおくるために）工夫、改善の視点・一つの事柄について二つ以上の視点・協働の視点をもつ	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	<p>主な現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活（学習への意欲、ルールを守った生活等）に前向きに取り組もうとしている児童が多い。一方で学習面や生活面で課題をもっている児童もいる。 ・指示された役割は、積極的に行うが、自分から進んで行動する経験が不十分なため、行動につながらない。 <p>課題として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題をもつ児童への関わり方を考えていくとともに、学級、学校全体で児童が学校生活を前向きに取り組むための環境を整備する必要がある。 ・児童が自己肯定感を高める活動を実施していくことが必要である。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方、言語文化について理解し、適切に使うことができる力。 ・互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に理解したり表現したりする力。 ・言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や想像する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述から読み取った内容や要点、場面の様子や人物の行動、心情、相互関係などについて、自分の考えと友達の考えを比べながら交流し、考えを広げ深めさせていく。 ・児童の意欲を大切に、書き方を学ばせることで書く力を付けていく。 ・音読を継続的に行う。 ・大事なことを落とさずに聞くことができるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や国土、歴史や文化など人々の働きを理解し、様々な資料や調査活動を通して情報を適切にまとめる力。 ・社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を考えたり、表現したりする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な社会的事象を意図的に取り上げる工夫をすることで、主体的にかかわっていきこうとする態度を育てる。 ・統計資料や地図・写真などの資料の読み取りを丁寧に行い、部分的な違いや全体的な傾向を読み取ったり複数の資料を関連付けて読み取ったりできるようにする。 ・調べる必然性のある学習課題を設定し、主体的で対話的な学びができるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形などについて理解し、計算したり作図したりする力。 ・算数の問題について、見通しをもって筋道を立てて考え、表現する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業の始めに 100 問計算をし、基礎的な計算の習熟、及び集中力を高める。 ・家庭学習の時間を活用して、計算ドリル、ベーシックドリルを中心とした学習に取り組む、計算などの基本的な技能及び既習事項の定着を図る。 ・単元により指導形態を工夫し、習熟度に応じた指導を行う。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説をたて、その予想や仮説の検証方法(実験・観察)を考える力。 ・実験や観察の結果から、科学的根拠を踏まえて、なぜそうなったのかを考察する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物、実物の提示や実験・観察の場面を多く取り入れる。 ・既習事項との関係付けを授業の導入で取り入れると共に、科学的思考力を育てる授業構成を重視する。 ・実験結果から科学的に考えが整理できる板書をする。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で協力し、学び合う活動を活かし、人や物に積極的に関わる力。 ・自然と触れ合い、手先を使って表現したり、伝え合ったりする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生と2年生の関わる活動を意図的に計画する。 ・地域めぐりを1, 2学期に目的を変えて複数回行う。 ・学校の畑やかに山等で、自然と触れ合う機会を設定する。 ・地域の農家の方をGTとして迎えて、学習を行う。

<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取り、音楽を形づくっている要素を理解する能力と、それを自分なりの表現につなげようとする思考力。 ・音楽に親しみ、友達と合わせる楽しさを感じ、音楽活動に主体的に取り組む力。 ・拍感・リズム感・音高 ・より良い発声・ひびきのある歌声、また美しい音色に気を付ける力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して聴く活動を意識的に取り入れ、気付いたことと音楽を形づくっている要素とのつながりがわかるような板書や授業計画を工夫する。また発言やワークシートなどで、児童の気付きや思いを組み取り、全体に広げ価値付けする。 ・体を動かしながら、自然に音楽の力が身に付くような活動を取り入れる。 ・聴き合ったり自分達の表現を振り返ったりする活動を通して、より良い表現を意識できるようにする。
<p>図画工作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの思いをためらいなく表現し、表現することに喜びを持つこと。 ・材料や用具を使い、表し方を工夫して、創造的につくったり表したりする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を自立解決できるよう、「試す」「工夫する」「やり直す」活動が十分に保障できるような指導計画を立てる。 ・ICTを活用し作業の流れが視覚的に分かるようにする。 ・道具の安全かつ正しい扱い方の指導を反復し定着させる。 ・よいアイデアを共有し、発想を広げる機会をつくることで造形的創造力を養う。 ・授業の導入でその時間のねらいを明確に伝え、作品例や実演を示して作品を高めるために何をすることが具体的につかめるようにする。 ・素材や表現対象などに触れる機会を多く設定し、感覚を通して児童が感性をはたらかせることができるようにする。
<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活経験を振り返り、よりよく生活するために、課題を解決しようとする力。 ・日常生活に必要な基礎基本を理解し、自分の生活に役立てようとする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で活用できるものを製作することで喜びを実感し、感想の発表を通して製作意欲を高める。 ・調理や手縫い、ミシン縫いの技能のポイントは例示し、分かりやすくする。 ・活動を振り返り、家庭の一員として協力することの大切さや、役割を実感し、生活に反映できるようにする。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に課題を設定し、その課題解決に向けて対話しながら解決することができる力。 ・児童が自身の能力を知り、生涯を通して運動に関わり、健康維持に努めるために考える力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短縄・大縄・ジョギング旬間を実施し、意欲的に取り組めるようにする。 ・個に応じためあてをもち、達成感を味わわせるようにする。 ・個やグループで運動に取り組むことにより、楽しく運動ができるようにする。 ・指導のポイントは、提示物やビデオなどを活用し分かりやすく提示する。 ・児童が互いに教え合うために必要な技能のポイントを例示するようにする。 ・児童相互の学習を高めるような言葉掛けについて話し合い、全体で共有する。 ・コーディネーショントレーニングを取り入れる。
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語と外国語との違いを理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる力。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力。 ・外国語の背景にある文化を理解し、他者に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「定着」を目標に毎時間指導に当たる。活動の切り替え時にはチャンツを流し、英語に触れる時間を多くする。 ・「読む」時には、スモールステップで行い、文字と音を合わせるようにしたり、「書く」時には、全員が同じ時間で終わるようにリズムをとったりして指導する。 ・モデルを示す、練習する、気持ちや考えを伝えることを意識した授業をし、英語で自己表現する言語活動を毎時間取り入れる。 ・次の展開への英語の指示を増やしていくことで、英語で進められるようにする。
<p>道徳科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的諸価値について理解し、自己を見つめる力。 ・物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の道徳的価値を絶対的なものとするのではなく、児童への揺さぶりを取り入れ、児童同士の話し合いの場を多く設定することで多様な価値観に触れるようにする。 ・教材のねらいに沿った事象を、児童の身近な場面に引き寄せることで、当事者意識をもって考えられるようにする。 ・ICTの活用や場面絵や仕掛けなどの視覚的装置を用い、児童の興味を引く。
<p>外国語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞く」「話す」のコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を高める力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「十分に英語を耳に馴染ませること」を目標に毎時間指導に当たる。そのために、活動の切り替え時にチャンツを流し、英語に触れる時間を多くする。 ・掲示物は精選し、黒板に貼るようする。 ・モデルを示す、練習する、気持ちや考えを伝えることを意識した授業をし、自己表現する言語活動を取り入れる。 ・活動の体系を工夫する。

